

令和3年度第1回三条地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 令和3年6月1日（火） 午前10時～11時55分

場 所 三条市役所 4階 全員協議会室

●出席委員（◎会長、○副会長）

◎兼古 耕一	布施 栄一	土田 初	○佐藤 栄
碁石 學	名古屋 澄恵	土田 広樹	米山 俊司
丸山 増雄	田代 正	小林 斉子	石黒 正晴
長谷川正樹	宮島 健	(14人)	

（欠席委員）

杉野 真司（1人）

●出席者

三条市長 滝沢 亮

総務部長 笹川 浩志

政策推進課 課長 米持 克広

政策推進課 政策推進係 係長 中村 拓也 主任 吉田 玲子

主事 織原 勇人 主事 波塚 由香里

●傍聴者

なし

●報道機関

三條新聞社

●内 容

1 開 会（午前10時開会）

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

4 出席者紹介

5 議 事

(1) 会長及び副会長の選出について

会長に兼古委員、副会長に佐藤委員を選出

(2) 行政評価に基づく令和2年度事後評価について

(米持政策推進課長 説明)

資料No. 1-1～3により行政評価に基づく令和2年度行政評価事後評価について説明
～質 疑～

(長谷川委員)

三条看護医療歯科衛生専門学校について、看護学科、医療事務学科、歯科衛生学科で、かなり大きな定員割れを起こしていると思うが、3学科それぞれ何名ずつ入学しているのか。

(米持政策推進課長)

令和2年度は、看護学科41名、歯科衛生学科27名、医療事務学科が13名で、定員に達していない。令和3年度は、看護学科が40名、歯科衛生士学科が48名、医療事務学科が20名となっており、歯科衛生士学科と医療事務学科は、定員には達していないものの、昨年度ほど大きな定員割れを起こしているわけではない。

(長谷川委員)

三条市立大学について。新聞報道などで、かなり人が集まったと知り、よかったと感じている。長期のインターンシップについて、燕市の企業とのインターンシップはあるか。

(米持政策推進課長)

入学した初年度はインターンシップの実施はないが、燕市の企業からも受入先として相当数協力いただいているところである。

(長谷川委員)

三条市立大学は、県央地域のものづくりのリーダーシップをある若者を育てていく大学と思っている。燕市長、加茂市長との連携を図ってほしい。

(滝沢市長)

三条市立大学の入学式には、燕市長にも、加茂市長にも、私が直接お願いし、参列いただいた。その際に、ぜひ地元の小中学生からも見学に来ていただきたいと御案内したところ、各市長からも喜んでという言葉を受戴した。名称こそ三条市立大学ではあるが、私の認識も県央地区の大学と位置付けているし、シャハリアル学長も、県央地区のみならず新潟県全域というイメージでいると思うので安心いただきたい。

(長谷川委員)

学生消防隊について。いつから設立する予定か。

(滝沢市長)

発足式は6月15日、10名程度の学生が入隊の予定である。

(長谷川委員)

総務省消防局のホームページを見て、全国的に消防隊員が増えてきているという中で、昭和女子大学教授の見解では、消防隊の活動内容をよく理解せずに入っている学生が多いのではないかというものがあつた。また、消防隊に入った学生の動機で、「楽しそうだからやってみ

ようか」と書いてあった。これは違うのではと思った。消防隊の若手の担い手不足に困っているとのことだが、消防隊の活動で、火事、地震などの災害で怪我をしたり、場合によっては命に関わったりする場合もある。消防隊員の活動がこういうものだということを、よく理解してもらった上で入隊させるべきではないかと思う。地域との触れ合いは大事だが、何も消防隊活動でなくでもいいのではないか。

三条市立大学の学生の気質も見極めないと、消防隊が果たしてうまくいくのか。場合によっては、学生から嫌だなという気持ちを持たれたり、評判を下げたりしなければいいかと心配している。消防隊の活動はかなりハードで、規律が厳しいというイメージを持っている。三条市立大生には、上からの命令を待って行動するのではなく、自ら考え、自由に、いろいろなことにチャレンジしてほしい。そういう意味では、消防隊の活動は真逆で、それがだめということはないが、三条市立大学の学生にふさわしい活動なのか心配である。少なくとも、消防隊の活動について、学生によく理解させた上で進めてほしい。

(滝沢市長)

活動内容をしっかり説明し、本人の理解、同意の上で進めていく。始めたばかりのものなので、今後の改善、改良のためにも、いただいた御意見は消防本部に伝えさせていただく。

(小林委員)

資料No.1-3 行政評価事後評価シート3ページに関して、昨年度までは農業者の先進地派遣で茨城県に派遣しており、今年度から派遣先を変えるという話だったが、それは新潟県内か。

「三条市食育の推進と農業の振興に関する計画」にある事項と共通の話だと思うが、三条市総合計画との整合性は取られているのか。

(米持政策推進長)

3ページの青年就農者育成等支援事業については、関係部署間では連携を図り、共通認識を持っているため、整合性は取られている。先進農業者への長期派遣研修先は変更した。

(小林委員)

11 ページに関連して、2年前からまちなかの賑わいを創出する円卓会議において、この部分について議論を重ねている。えんがわと八幡公園、複合施設、体育文化会館を結び、場と場を有機的につないで人の流れを作ろうという議論を進めてきた。まだ結論は出ていないところであるが、これが成功しているのであれば、まちなかの1日当たりの平均歩行者数がもっと増えていてよいはずなのに、目標値より少ない。評価の説明では成功したように書いてあるが、実態が合っていないことについての説明を求める。

(米持政策推進課長)

令和2年度は1,174人の目標値に対して実績値は1,154人で、目標には若干及ばなかったものの、感染症禍においてそれだけ伸びているということで、悪くない数字だと認識している。

(笹川総務部長)

確かに円卓会議の場でいろいろな議論をいただいているが、まちなかの回遊をどうしてい

くかについては結論が出ていないところである。あくまでも令和2年度の目標と実績であり、目標値こそ達成していないものの、感染症禍においては昨年よりも伸びていることを評価している。複合施設が完成した際には、次の目標として、円卓会議の皆様からの御意見を具体的な数字として反映させたいと考えている。

(小林委員)

16 ページのテーマ型コミュニティについて。コミュニティの概念は共同体という認識であるが、テーマ型とは例えばどのようなものがあるか。何人の共同体、集合体をコミュニティと定義づけているか。

自分たちでテーマを作って集まり、活動することが、やがてマンパワーとなり、三条市の基礎を作るとか、様々な場面で活躍してくれるコミュニティに育っていく。その人たちがどのようなテーマでコミュニティを作っているのかを情報発信していくことは、次のステップに上がるために大変重要なことである。

(米持政策推進課長)

テーマ型コミュニティについては、演劇、フラワーアレンジメント、音楽や創作活動を楽しむといった、趣味の活動を含めた様々なものがある。コミュニティの概念は、2人以上ということである。行政がこういったものやрьてくださいとお願ひをするというよりも、趣味趣向の合う方々が集まって取り組むものと考えている。テーマ型コミュニティについての情報発信で、更なる参加者を募っていくことが重要だと認識している。

(小林委員)

趣味の範囲のサークル的なものを指しているようにしか聞こえない。公民館などでサークル活動をされている方々のことを、テーマ型コミュニティとしていることが現実か。

(滝沢市長)

テーマ型コミュニティという言葉遣いが合っているかというところだが、自治会、地域活動以外の幅広いものとしている。テーマ型コミュニティについて、三条市からこういったものを作ってくださいと主導したことはなく、今後も考えていない。

(小林委員)

行政運営に当たって、市民との協働の中で、ぜひともこういうものを立ち上げてほしいと、自ら発信することも必要だと思う。そうでなければ、現状のサークル活動の延長線上のようになってしまう。三条市政の運営で、こういう人たちが集まってくれたら、こういう組織が立ち上がってくれたら、こういうマンパワーがあれば次のステップに上がれるという考えもあると思う。こういったものが自治会等でないコミュニティで必要だと思えないのか。

(滝沢市長)

災害等であれば、既にいろいろな形で実践している。

(小林委員)

行政と市民とのパートナーシップの中で、自ら行政に関わりたひという、いろいろな考えを

持った市民がいる中で、災害等以外でのテーマ型コミュニティに発展してもらいたい。

(滝沢市長)

貴重な御意見に感謝申し上げます。

(宮島委員)

資料No.1-3 行政評価事後評価シート 11 ページのまちなかの1日当たりの平均歩行者数については、場所を特定して計測しているか。

(米持政策推進課長)

具体的な場所については、現在持ち合わせてないが、定点観測をしている。

(長谷川委員)

4年後に国道289号の全線開通が迫っているが、三条市総合計画の多極分散型社会の堅持でも、越後・南会津街道観光・地域づくり事業ということでやっていて、良い取組であると認識している。昨年度の三条市地区協議会の議事録を見て、下田地区協議会ではこの件についての意見があったが、三条地区協議会でも、栄地区協議会でも、国道289号の開通による観光開発についての話題が全く出ていなかった。全線開通すれば、福島県からも観光客が増えるだろうし、三条市以外の市町村からもここを通過して福島へ行こうという人が増えると思う。かなり観光客が増えると思うが、下田地区ばかりでなく、三条地区も栄地区も観光客を迎え入れるチャンスとして取り組む必要があると思う。

例えば、三条地区では工場の祭典のような企画、栄地区はしらさぎ森林公園をかなり予算をかけてリニューアルすると出ていたので期待している。花しょうぶ園は、新発田や瓢湖のヤマメ園と比べても遜色はないと思っている。これらの重要な資源を、多くの観光客が行きたいと思う魅力あるものにリニューアルしていただきたい。花菖蒲やあじさい以外の時季はぱっとしないので、総合的に考えて花の咲く木を増やすなどし、しらさぎ森林公園の魅力をアップしていただきたい。春のかたくりの花が咲く時季の散策はとてもよいが、遊歩道が壊れてきた。また、頂上付近からの見晴らしがよく、昔は佐渡島まで見えたほどであったが、現在は木が生えていて全く見えないといった状況である。ぜひ、しらさぎ森林公園を、観光客を呼び込める公園にリニューアルしていただきたい。

(滝沢市長)

八十里越えについて、あと5年程度で開通と国から示されたところであるが、観光や人の流れを考えたときに、下田地区に特化するのではなく、三条地区、栄地区のみならず、県央地区、新潟県全体の話だと考えている。私たちが県外に車で行ったとき、あるいは福島から来る人が、三条市と市外との境界を意識して移動する方はほとんどいないと思う。そういった意味では、この三条市が太平洋側との玄関口となるわけなので、県全体で連携して進めていくということが大事であると考えている。

しらさぎ森林公園については、人と自然というところが、これからのまちづくりの中で私がキーポイントとしているところである。しらさぎ森林公園は、これからの季節、虫も含めてい

いシーズンを迎えるが、夏以降どうするかというところで、例えばひまわりだったり、何なら下田からヒメサユリを持ってこようかという話もあったりする中で、人と自然を意識したまちづくりを進めていきたいと考えている。いただいた御意見については、全て頭の中に入っている状況である。市民の皆様の御意向をしっかりと反映させながら進めていきたいと考えている。

(兼古会長)

先日、私も八十里越の関係で、商工会議所という立場で、市長も含めて福島県側とリモートで会議をしたところである。これまでは、5年程度あればつながるだろうといった、あいまいな情報の中、関係者にとってはまだまだ先の感があったと思うが、今回は国交省から5年というかなり強いメッセージが出たところである。関係機関が知恵を出し合って、これから本格的に議論が盛んになると思う。せっかくできる道路をいかに活用していくか、今ほどの長谷川委員の御意見も十分尊重しながら、今後の市長のリーダーシップに期待したい。

(田代委員)

資料No.1-3 行政評価事後評価シート9ページの教育システムの基盤強化のところで、不登校児童の発生率の全国平均との差で、全国平均がどのくらいかは分からないが、全国平均より低いからよしとしないしてほしい。水面下ではいじめがあるという話も先生からは聞いているので、地域にも、学校でのいじめや不登校についての現状の情報発信をしてほしい。

また、スクールアシスタント74名というのは、市内トータルの人数か。一校当たり2名の配置と聞いているが、増員することによって先生方の負荷を下げようとしているのか、どのように考えているか。

高齢者に対する情報発信について、柔らかい表現で情報を通達できないものか。仰々しい文面だと読む気がしなくなってしまう。時代に合う、高齢者が興味を引くような文面を工夫いただきたい。

(滝沢市長)

いじめや不登校については個別の事案であり、全体の統計的な話をしても、数字に意味があるようでないものと認識している。どのような対応をしているかについては、当事者には必要な情報を提供しているところではあるが、確かに市全体の取組のアピールは弱いと感じていた部分でもあったので、こうしたところをしっかりと市民に伝えるということで、今の御意見は教育委員会に伝える。

スクールアシスタントについては、昨年度までは一人当たり年間120日だったものを、今年度から人数は同じで活動日数を135日に増やしたところである。人数の配分など、今後は学校の意見も聞きながら、いい形で進めていきたい。

情報発信について、三条市含め、全ての行政が苦手としている部分ではないかと感じている。例えば、今回の新型コロナウイルスワクチンの関連の案内にしても、細かな文字の文書が7枚もある。両親の所にも、郵送で2人分2通が届いたが、開封したのは1通だけだったと聞

いた。

丁寧に伝えなければならないところと、親しみやすく伝えるべきことだけを伝えるといったメリハリをつけ、誰に読んでもらうのかという部分は伸び代があると思う。我々行政も、丁寧に説明したいというのが基本にあるので、今の話を含め、こういうものはシンプルな方がよいというような御意見をいただきたい。

(小林委員)

資料No.1-3 行政評価事後評価シート 8 ページ、子育てしやすい環境の充実のところ、子育てに不安を感じている人の割合が、計画作成時の現状値が 70.5%、令和 4 年度の目標値が 50%である。令和 2 年度に「すまいる子ども若者プラン」で同じ項目でアンケートを実施したとのことだが、そのときの割合が 69.4%である。そもそも 50%の人に不安があるということが不安である。昨年度、この地区協議会の場で同じことを聞き、答えが出なかったと思うが、これでいいのかということにどうしても行き着く。アンケートを実施した際は、何に対する不安かということをおそらく聞いたはずで、経済的なこと、身体的なことなど、様々な悩みを抱えた人たちがいたのだと思う。この結果について、そもそも子育てに不安を感じている人がこれだけの割合いることについて、社会の縮図であると思うが、どう考えるか。

市長は子育て政策に力を入れていると感じているが、一時的な取組を打っても根本的な問題の解決にはならないと思う。先日、新聞等で取り上げられていた、夏休みに児童クラブで弁当が注文できるようになる取組が、果たして解決の道かという気がする。市長の政策を否定するつもりはないが、もっと違う取り組み方があるのではないか。

(滝沢市長)

よい形で今後示せるようにしていきたい。もっと子育て政策に力を入れてほしいという市民の皆様からの御意見と受け止めさせていただく。

(小林委員)

これからの子育て政策に期待する。

(土田 (初) 委員)

資料No.1-3 行政評価事後評価シート 14 ページ水害対策の推進の関係で、新潟市が水害に遭いそうだというときに、排水運転をしないでくれと要請された場合、雨水ポンプ場の排水運転は新潟市民のために停めるのか、三条市民のために回すのか、どのような考え方がか。

(笹川総務部長)

基本的には、三条市民の生命と財産を守るのが最優先である。例えば中ノ口川への水量を止めてくださいというような話かと思う。三条市では、須頃の土地区画整理事業関連では、これまでに新潟市からそういった依頼は来っていない。万が一停めた場合でも、調整池や排水路等で対応する。まずは地元住民を優先する考え方である。

(滝沢市長)

もちろんぎりぎりの判断に迷うような場面がないことが一番だが、最終的な判断が必要に

なれば、私は三条市の長である以上三条市民を最優先とする。

(長谷川委員)

昨年度の栄地区協議会において、三条、栄、下田3地区の合同の集まりを持ったかどうかという意見があったと思う。そのとき、市側は検討に値するものだと回答していたようだが、その後どうなったか。

(米持政策推進課長)

新たな総合計画については、まだ策定すると決まってはいるが、今後策定することになれば、三条市全体として、各地域から御意見を頂戴したいという中で、合同の協議会を開催する運びとなると思う。本協議会には、現在の総合計画策定時から携わっていただいている委員もおいでになるが、地域の特性を生かした多極分散型社会の堅持という考えの下、各地域で、実際にそこに住んでいらっしゃる方から地域の実情に関する御意見をいただくのが最も効率的だろうということで、分散での開催をさせていただいている。

(長谷川委員)

昨年度の栄地区協議会での意見の主旨は、他地区の方がどう考えているとか、違う地区同士で話をした方が議論が深まるのではといった、いい意味での提案だったと思う。今の話は理解したが、他地区のことにも興味を持ち、総合計画の策定に関わらず、普段からのいろんな地区との交流が必要だと考えるから聞いた。

(小林委員)

総合計画について審議する三条市地区協議会以外の審議会等では地区の区別がない。地区別とするのは、この協議会の特性である。

(米持政策推進課長)

他地区との交流については、各地区にお住まいの方それぞれが、公私にわたって他地区の方々と交流を日頃からなさっていて、その思いを地区協議会という場でおっしゃっていただく形もあるかと考えている。審議会である三条市地区協議会については、各地区で開催する形を現在はとっている。

資料No.1 - 4 「地方創生関係交付金について」について説明 (米持政策推進課長)

資料No.1 - 4 「地方創生関係交付金について」に基づき説明のとおり、空間PRモデル活用事業の実施を見送ることとし、推進交付金実施計画の変更(当該事業の削除及びKPIの変更)を申請することについて異議はなかった。

6 閉会 (午前11時55分閉会)